

講義要綱

SYLLABUS

2026年度

柔整科

3

年

【専門基礎分野】

解剖学特論Ⅰ
解剖学特論Ⅱ
生理学特論Ⅰ
生理学特論Ⅱ
病理学概論Ⅱ
一般臨床医学Ⅲ
一般臨床医学Ⅳ
外科学概論Ⅱ
衛生学Ⅱ
リハビリテーション医学Ⅱ
臨床外傷学
関係法規
柔道Ⅳ
社会保障制度
職業倫理

【専門分野】

柔道整復特論Ⅰ
柔道整復特論Ⅱ
画像評価学
柔整脱臼軟損実技Ⅲ
柔整総合実技Ⅰ
柔整総合実技Ⅱ
柔整総合実技Ⅲ
臨床実習Ⅳ



学校法人 エイジェック学園

2026年度	[分野]	専門基礎	/	人体の構造と機能
[授業科目]	解剖学特論Ⅰ			3学年
[基本情報]				

担当教員	木原 和彦		単位数	2	時間数	40
実務/資格	医療系大学で解剖学の講義、実習指導経験のある教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]
解剖学は柔道整復師を志す学生が医学を理解するための基礎教科である。すなわち、解剖学は単に知識を記憶することではなく、人体構造のイメージを直接身につけることを目標としている。からだを構成している細胞から器官にいたる各单位について人体概説-脈管系の基本的な構造と各系に対する構造と特徴を理解することを目標とする。

[評価方法]
単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。 単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。 また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。 ※ クラスのレベルに応じて、授業計画の進度を調整することがある。

[教科書]	[参考書]
全国柔道整復学校協会監修教科書 解剖学第2版	

[履修の条件・留意点]
・各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。 ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	人体解剖学概説；細胞および組織、到達度確認	講義
2回	人体解剖学概説；組織 到達度確認	講義
3回	人体解剖学概説；発生、体表の区分、到達度確認	講義
4回	運動器系；骨格器（総論、脊柱）、到達度確認	講義
5回	運動器系；骨格器（上肢）、到達度確認	講義
6回	運動器系；骨格器（下肢）、到達度確認	講義
7回	運動器系；骨格器（頭蓋）	講義
8回	運動器系；骨格器の到達度確認	講義
9回	運動器系；筋系（頭頸部）、到達度確認	講義
10回	運動器系；筋系（胸部、腹部）、到達度確認	講義
11回	運動器系；筋系（背部）、到達度確認	講義
12回	運動器系；筋系（上肢）、到達度確認	講義
13回	運動器系；筋系（下肢）、到達度確認	講義
14回	脈管系；総論	講義
15回	脈管系；血管系、心臓、到達度確認	講義
16回	脈管系；動脈（頭頸部）、到達度確認	講義
17回	脈管系；動脈（上肢、胸腹部）、到達度確認	講義
18回	脈管系；動脈編（下肢、静脈総論）、到達度確認	講義
19回	脈管系；静脈系、到達度確認	講義
20回	脈管系；胎児循環、リンパ系、到達度確認	講義

担当教員	木原 和彦	単位数	2	時間数	40
実務/資格	医療系大学で解剖学の講義、実習経験のある教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

解剖学は柔道整復師を志す学生が医学を理解するための基礎教科である。すなわち、解剖学は単に知識を記憶することではなく、人体構造のイメージを直接身につけることを目標としている。からだを構成している細胞から器官にいたる各単位について内臓器－感覚器系に関する基本的な構造と各系に対する構造と特徴を理解することを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。
また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。
※ クラスのレベルに応じて、授業計画の進度を調整することがある。

[教科書]	[参考書]
全国柔道整復学校協会監修教科書 解剖学第2版	

[履修の条件・留意点]

- ・各講義の内容は互いに関連しているので、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。
- ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	消化器系：（概要、口腔～食道、胃～大腸）	講義
2回	消化器系：（肝臓、膵臓）	講義
3回	消化器系 到達度確認	講義
4回	呼吸器系：（鼻腔、喉頭）	講義
5回	呼吸器系：（気管、肺） 到達度確認	講義
6回	泌尿器系：腎臓	講義
7回	泌尿器系：尿路 到達度確認	講義
8回	生殖器系：男性	講義
9回	生殖器系：女性	講義
10回	生殖器系 到達度確認	講義
11回	内分泌器系 到達度確認	講義
12回	神経系：（神経系の基礎、中枢神経；脳）	講義
13回	神経系：（中枢神経；脳）	講義
14回	神経系：（中枢神経；脊髄、伝導路）	講義
15回	神経系：（末梢神経；脳神経）	講義
16回	神経系：（末梢神経；脊髄神経）	講義
17回	神経系：（自律神経）、到達度確認	講義
18回	感覚器系：目、外皮	講義
19回	感覚器系：聴覚、平衡器	講義
20回	体表解剖学	講義

2026年度 [分野] 専門基礎 / 人体の構造と機能

[授業科目]

生理学特論Ⅰ

3学年

[基本情報]

担当教員	熊澤 真理子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	専門学校で指導経験のある歯科医師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

1・2年次に学んだ生理学についての理解をさらに深める。特論Ⅰでは生理学の基礎、筋の生理、神経の生理、運動の生理、感覚の生理、内分泌、生殖、骨の生理について学び、施術の際に説明でき、国家試験にも対応できる知識を身に付ける。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』,南江堂.

[履修の条件・留意点]

教科書を持参して下さい。食事をしないで下さい（飲み物は可）。
ウォークマンを聴かないで下さい。長時間途中退出をしないで下さい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	生理学の基礎（細胞、組織、生体の恒常性、体液の区分と組成）	講義
2回	筋肉の生理（骨格筋、心筋、平滑筋）	講義
3回	神経の生理①（神経信号の伝達）	講義
4回	神経の生理②（神経系の構成、脳の高次機能）	講義
5回	神経の生理③（内蔵機能の調節）	講義
6回	運動の生理①（運動の調節、運動神経と運動単位）	講義
7回	運動の生理②（脊髄による反射とその調節）	講義
8回	運動の生理③（脳幹による運動調節、高次運動機能）	講義
9回	感覚の生理①（感覚の一般的な特性、特殊感覚「視覚・聴覚」）	講義
10回	感覚の生理②（特殊感覚「平衡感覚・味覚・嗅覚」,体性感覚）	講義
11回	感覚の生理③（内臓感覚、痛覚）	講義
12回	内分泌①（内分泌腺、「視床下部ホルモン・下垂体ホルモン」）	講義
13回	内分泌②（「甲状腺・副甲状腺・副腎皮質のホルモン」）	講義
14回	内分泌③（「副腎髄質・腎臓・膵臓」のホルモン）	講義
15回	内分泌④（「精巣・卵巣のホルモン」,内部環境の恒常性維持）	講義
16回	生殖①（性分化、男性生殖器）	講義
17回	生殖②（女性生殖器）	講義
18回	生殖③（妊娠と分娩）	講義
19回	血液①（血液の成分と組成、止血）	講義
20回	血液②（血液型、免疫）	講義

担当教員	熊澤 真理子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	専門学校で指導経験のある歯科医師が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

1・2年次に学んだ生理学についての理解をさらに深める。特論Ⅱでは血液、循環、呼吸の生理、尿の生成と排泄、栄養と代謝、消化と吸収、体温とその調節、高齢者の生理学的特徴・変化、発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化について学ぶとともに問題演習を通じて国家試験にも対応できる知識を身に付ける。

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

公益社団法人全国柔道整復師学校協会監修『生理学改訂第4版』，南江堂。	
------------------------------------	--

教科書を持参して下さい。食事をしないで下さい（飲み物は可）。
ウォークマンを聴かないで下さい。長時間途中退出をしないで下さい。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	骨の生理（骨の構造,骨の成長）	講義
2回	循環①（心臓）	講義
3回	循環②（血管,リンパ系,循環調節）	講義
4回	呼吸の生理①（呼吸器系の構造,換気）	講義
5回	呼吸の生理②（ガス交換と運搬,呼吸周期の調節）	講義
6回	尿の生成と排泄①（腎臓の構造と機能,尿の生成）	講義
7回	尿の生成と排泄②（腎血流量,排尿）	講義
8回	尿の生成と排泄③（腎臓による体液の調節）	講義
9回	栄養と代謝①（生体に必要な栄養素）	講義
10回	栄養と代謝②（エネルギー代謝,栄養素の代謝）	講義
11回	栄養と代謝③（食物と栄養）	講義
12回	消化と吸収①（消化器系の構成と働き,食物の消化と吸収①）	講義
13回	消化と吸収②（食物の消化と吸収②）	講義
14回	消化と吸収③（各栄養素の消化と吸収）	講義
15回	体温とその調節①（体温、熱産生、熱放散）	講義
16回	体温とその調節②（体温調節，気候順化、発熱とうつ熱）	講義
17回	高齢者の生理学的特徴・変化①	講義
18回	高齢者の生理学的特徴・変化②	講義
19回	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化①	講義
20回	発育と発達および競技者の生理学的特徴・変化②	講義

[授業科目]

病理学概論Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	伊藤 春雄	単位数	2	時間数	40
実務/資格	医療科教員免許を持ち、専門学校で指導経験のある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

疾病による生体の変化を病因，形態学的観点から理解する。ホメオスタシス，免疫不全，アレルギー，奇形，腫瘍，感染症，運動器の病態生理などについて，柔道整復師として必要な知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験を行い、60％以上の正解をもって単位修得を認定する。ただし出席日数の充足していない受講者は単位修得を認めない。

[教科書]

[参考書]

病理学概論（医歯薬出版）	
--------------	--

[履修の条件・留意点]

遅刻をしないこと。授業中の私語と携帯電話の使用は慎むこと。机上に食物を置かないこと。上記を守り、学習していきましょう。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	生体防御機構と免疫	講義
2回	液性免疫、細胞性免疫、サイトカイン	講義
3回	免疫不全	講義
4回	自己免疫疾患	講義
5回	アレルギーの分類	講義
6回	アレルギー性疾患	講義
7回	腫瘍の定義、腫瘍の細胞生物学	講義
8回	腫瘍の発育段階、発癌のメカニズム	講義
9回	腫瘍の分類	講義
10回	主要な癌と肉腫	講義
11回	先天異常	講義
12回	奇形	講義
13回	病因の一般	講義
14回	栄養障害	講義
15回	物理的外因	講義
16回	感染症（細菌）	講義
17回	感染症（ウイルス）	講義
18回	運動器の病理	講義
19回	問題演習①、解説（生体防御と免疫～腫瘍の分類）	講義
20回	問題演習②、解説（主要な癌と肉腫～運動器の病理）	講義

2026年度 [分野] 専門基礎 / 疾病と傷害

[授業科目]

一般臨床医学Ⅲ

3学年

[基本情報]

担当教員	初鹿 達朗	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験のある医師が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。具体的には代謝疾患、内分泌疾患、血液疾患、腎疾患、神経疾患、感染症、膠原病などを学び、臨床現場で適切な評価ができ、説明できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。 単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

一般臨床医学 改訂第3版 (医歯薬出版株式会社)	
--------------------------	--

[履修の条件・留意点]

授業中、飲み物の摂取、ラップトップ・タブレット・スマートフォンなどの使用は可。ただし、いずれも音は出ないように配慮してください。
--

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	D 糖尿病、脂質異常症、肥満症、高尿酸血症	講義
2回	E 内分泌疾患総論、下垂体疾患	講義
3回	E 甲状腺疾患、副腎疾患	講義
4回	F 血液・造血器疾患総論、白血球系疾患、血小板および凝固系疾患	講義
5回	F 赤血球系疾患	講義
6回	G 腎・尿路疾患総論、糸球体疾患	講義
7回	G ネフローゼ症候群、泌尿器疾患	講義
8回	D,E,F,Gの復習	講義
9回	H 神経疾患総論①	講義
10回	H 神経疾患総論②	講義
11回	H 神経変性疾患	講義
12回	H 脱髄性疾患、筋疾患	講義
13回	H 脳血管障害	講義
14回	I 感染症総論、総論、麻疹、風疹、水痘、猩紅熱	講義
15回	I 結核、後天性免疫不全症候群、マラリア、梅毒	講義
16回	J リウマチ・膠原病・アレルギー総論、関節リウマチ、強直性脊椎炎	講義
17回	J 全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎・皮膚筋炎	講義
18回	J ペーチェット病、結節性多発動脈炎、リウマチ熱	講義
19回	H,I,Jの復習	講義
20回	K 環境要因による疾患	講義

担当教員	初鹿 達朗		単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験のある医師が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---	

柔道整復師に必要な医学について学ぶ。臨床現場で適切な評価ができ、説明できる知識を身に付けることを目標とする。また、今まで学んだ内容を復習し、国家試験でも対応できる知識を身に付けることを目標とする。
--

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。 単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。
--

一般臨床医学 改訂第3版 (医歯薬出版株式会社)	
--------------------------	--

授業中、飲み物の摂取、ラップトップ・タブレット・スマートフォンなどの使用は可。ただし、いずれも音は出ないように配慮してください。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	A 肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺癌、肺血栓塞栓症、気胸	講義
2回	B 心不全、冠動脈疾患、弁膜症	講義
3回	B 先天性心疾患、血管疾患、不整脈	講義
4回	C 消化管疾患	講義
5回	C 肝胆膵疾患	講義
6回	D 糖尿病、脂質異常症、肥満症、高尿酸血症	講義
7回	E 下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患	講義
8回	F 白血球系疾患、血小板および凝固系疾患、赤血球系疾患	講義
9回	G 糸球体疾患、ネフローゼ症候群、泌尿器疾患	講義
10回	H 神経疾患総論	講義
11回	H 変性疾患、脱髄性疾患	講義
12回	H 筋疾患、脳血管障害	講義
13回	I 感染症総論、麻疹、風疹、水痘、猩紅熱、結核、後天性免疫不全症候群、梅毒	講義
14回	H 古典的膠原病	講義
15回	問題形式演習①、解説（診察総論など）	講義
16回	問題形式演習②、解説（呼吸器疾患～心疾患など）	講義
17回	問題形式演習③、解説（消化器系疾患～代謝性疾患など）	講義
18回	問題形式演習④、解説（内分泌疾患など）	講義
19回	問題形式演習⑤、解説（泌尿器疾患～神経疾患など）	講義
20回	問題形式演習⑥、解説（感染症～膠原病など）	講義

[授業科目]

外科学概論Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	河村 英恭、柿沼 寛人	単位数	2	時間数	40
実務/資格	臨床経験のある医師が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師に必要な外科学について学ぶ。概論Ⅰで学んだ内容を復習し、さらなる理解を深め、国家試験でも対応できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

外科学概論 改定第4版（南江堂）	
------------------	--

[履修の条件・留意点]

授業内容は、なるべく授業中に理解するようにしてください。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	イントロダクション・損傷	講義
2回	炎症と外科感染症	講義
3回	腫瘍	講義
4回	ショック・心肺蘇生法	講義
5回	輸血・輸液	講義
6回	消毒と滅菌	講義
7回	手術・麻酔	講義
8回	移植と免疫	講義
9回	出血と止血	講義
10回	外傷総論	講義
11回	脳神経外科疾患	講義
12回	甲状腺・頸部疾患	講義
13回	胸壁・呼吸器疾患	講義
14回	心臓・脈管疾患	講義
15回	乳腺疾患	講義
16回	腹部外科疾患	講義
17回	総復習①	講義
18回	総復習②	講義
19回	総復習③	講義
20回	総復習④	講義

2026年度	[分野]	専門基礎	/	疾病と傷害
[授業科目]	衛生学Ⅱ			3学年
[基本情報]				

担当教員	最上 紀美子	単位数	2	時間数	40
実務/資格	博士号を持つ薬剤師が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]
衛生学，公衆衛生学について学ぶ。生活環境、食品衛生、保険関連，医療倫理，疫学などについて，柔道整復師にとって必要な知識を身に付け，全範囲の振り返りを行い、国家試験でも対応できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]
単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。 単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする．また全授業数の 1 / 3 以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]	[参考書]
衛生学・公衆衛生学改訂第6版	

[履修の条件・留意点]
遅刻、欠席の取り扱いについては学則どおりとします。 教科書を持参してください。また、授業で配布したプリントや小テストは保存してください。

授業計画：回数/講義内容/形式			
1回	生活環境・食品衛生活動	上水・下水、住居・衣服と健康	講義
2回	生活環境・食品衛生活動	食品衛生、廃棄物	講義
3回	母子保健	母子保健、母子保健指標、母子保健対策	講義
4回	学校保健	学齢期の健康状況、学校における保健活動	講義
5回	産業保健	職業病、労働災害、産業保健対策	講義
6回	成人・高齢者保健	成人・高齢者の健康状況、生活習慣病	講義
7回	成人・高齢者保健	高齢者保健・福祉対策	講義
8回	精神保健	精神の病気、精神障害者の対策	講義
9回	地域保健と国際保健	地域保健活動	講義
10回	地域保健と国際保健	国際保健組織	講義
11回	衛生行政と保健医療の制度	保健所の業務、医療・福祉制度	講義
12回	医療の倫理と安全の確保	医療の倫理、医療安全の確保	講義
13回	疫学	疫学指標、疫学研究の種類	講義
14回	衛生学Ⅰ復習	健康の定義、衛生統計、疾病予防	講義
15回	衛生学Ⅰ復習	感染症、感染症対策	講義
16回	衛生学Ⅰ復習	消毒法一般、種類と方法	講義
17回	衛生学Ⅰ復習	環境と適応、環境と健康、公害	講義
18回	総復習	生活環境・食品衛生活動、母子保健、学校保健	講義
19回	総復習	産業保健、成人・高齢者保健、精神保健、地域保健と国際保健	講義
20回	総復習	衛生行政と保健医療の制度、医療の倫理と安全の確保、疫学	講義

2026年度 [分野] 専門基礎 / 疾病と傷害

[授業科目]

リハビリテーション医学Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	田中 順一郎☒	単位数	2	時間数	40
実務/資格	理療科教員免許を持ち、専門学校で指導経験のある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

患者がもつ障害に対する理解を深めると同時に、国家試験に向け知識を整理・吸収し、リハビリテーションの基礎について学ぶ。関連職種、治療技術、装具、各種疾患とアプローチなどについて理解する。
--

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。 単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。
--

[教科書]

[参考書]

公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修：リハビリテーション医学 改訂第4版	授業毎にプリントを配布する
---	---------------

[履修の条件・留意点]

復習を欠かさないこと。配布したプリントを忘れずに持ってくること。分からないことを放置しないこと。 授業中、携帯電話の電源はオフにし、飲食物は机上に置かないこと。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	運動失調	講義
2回	リンパ浮腫	講義
3回	ライフサイクルと各ステージの障害特性	講義
4回	脳卒中と画像診断	講義
5回	脳卒中の障害①運動麻痺、感覚障害、視野障害、排泄障害、精神・心理症状	講義
6回	脳卒中の障害②失語症と構音障害	講義
7回	脳卒中の障害③嚥下障害	講義
8回	脳卒中の障害④失認症と失行症、高次脳機能障害	講義
9回	慢性疼痛、筋電図検査	講義
10回	全身運動	講義
11回	筋力強化	講義
12回	理学療法と物理療法	講義
13回	作業療法	講義
14回	補装具①	講義
15回	補装具②	講義
16回	補装具③	講義
17回	高齢者のリハビリテーション①（フレイル、ロコモティブシンドローム、サルコペニア）	講義
18回	高齢者のリハビリテーション②（介護保険と介護支援専門員、機能訓練指導）	講義
19回	パーキンソン病	講義
20回	脳卒中のリハビリテーション	講義

2026年度 [分野] 専門基礎 / 柔道整復術の適応

[授業科目]

臨床外傷学

3学年

[基本情報]

担当教員	林 泰京	単位数	2	時間数	40
実務/資格	骨関節、筋などの運動系疾患、外傷を大学で教授経験のある教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師の業務範囲が否か、適切な判断ができる知識を身に付ける。柔道整復術の限界はどこまでかを理解し、業務範囲外のものに対しても、適切な対応ができる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

整形外科学（改正4版）、医療の中の柔道整復

標準整形外科学（第14版）

[履修の条件・留意点]

1) 特別の理由がない遅刻は出席と認めない。2) 講義中の私語、携帯電話による通話、メールは禁止し、直ちに退席を求める。3) 学習状況に応じて授業計画は柔軟に変更する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	疾患別各論 ⑥神経麻痺と絞扼性神経障害	講義
2回	疾患別各論 ⑦腕神経叢麻痺・分娩麻痺、全身性神経・筋疾患⑧脊髄腫瘍、脊髄損傷	講義
3回	身体部位別各論 ①頸部 ②胸部	講義
4回	身体部位別各論 ③腰部	講義
5回	身体部位別各論 ④肩関節・肩甲帯	講義
6回	身体部位別各論 ⑤上腕・肘関節	講義
7回	身体部位別各論 ⑥前腕・手関節	講義
8回	身体部位別各論 ⑦手・手指	講義
9回	身体部位別各論 ⑧骨盤・股関節	講義
10回	身体部位別各論 ⑨大腿・膝関節	講義
11回	身体部位別各論 ⑩下腿・足関節	講義
12回	身体部位別各論 ⑪足・足趾	講義
13回	1 柔道整復術の適否を考える 2 損傷に類似した症状を示す疾患①	講義
14回	2 損傷に類似した症状を示す疾患②	講義
15回	3 血流障害を伴う損傷 4 末梢神経損傷を伴う損傷	講義
16回	5 脱臼骨折 6 外出血を伴う損傷	講義
17回	7 病的骨折及び脱臼 8 意識障害を伴う損傷	講義
18回	9 脊髄症状のある損傷 10 呼吸運動障害を伴う損傷	講義
19回	11 内臓損傷の合併が疑われる損傷	講義
20回	12 高エネルギー外傷	講義

[授業科目]

関係法規

3学年

[基本情報]

担当教員	関 凌真		単位数	2	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---	

[授業目標]

柔道整復師として業務に従事するうえで必要な法令を理解する。柔道整復師法、及びその他の医療福祉法規を学び、法令の中で適切な施術ができるようになることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

関係法規 2026年版 医歯薬出版

[履修の条件・留意点]

- ・各講義の復習をしっかりと行い、各講義の内容を理解しておくこと。
- ・毎回の授業の理解度の確認のために、前回授業の復習テストを実施します。
- ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。
- ・パソコンやタブレット等の使用は許可を得ることで使用可能とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	序論：法の意義、インフォームドコンセント、医療過誤とリスクマネジメント	講義
2回	柔道整復師法とその関連内容：第一章 総則	講義
3回	第二章：免許	講義
4回	第三章：柔道整復師国家試験	講義
5回	第四章：業務	講義
6回	第五章：施術所	講義
7回	第六章：雑則	講義
8回	第七章：罰則	講義
9回	第八章：指定登録機関及び指定試験期間 第九章：附則	講義
10回	医療従事者の関係法規	講義
11回	医療法	講義
12回	社会福祉関係法規 p 90～	講義
13回	社会福祉関係法規 p 95～	講義
14回	その他関係法規	講義
15回	個人情報保護法	講義
16回	序論、柔道整復師法、免許、柔道整復師国家試験の復習	講義
17回	柔道整復師国家試験、業務、施術所、雑則、罰則の復習	講義
18回	罰則、指定登録機関及び指定試験機関、附則、医療従事者の関係法規、医療法、社会福祉関係法規の復習	講義
19回	社会福祉関係法規、その他関係法規、個人情報保護法第の復習	講義
20回	総まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔道Ⅳ

3学年

[基本情報]

担当教員	増地 克之	単位数	1	時間数	40
実務/資格	体育系大学で柔道コーチングを担当している教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

柔道を通じて、精力善用、自他共栄の精神を身に付ける。柔道の礼儀作法、投げの型、受け身を学び、人に対する尊敬と謙虚さを身に付け、社会へ貢献する考え方を身に付けることを目標とする。
--

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。 なお、全授業数の 1 / 3 以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

昇段審査のための柔道の形入門(投の形)(柔の形) 小俣幸嗣著 大泉書店	
--	--

[履修の条件・留意点]

11月の認定実技試験に向け、身だしなみ（ネックレス、ヘアピン、ピアスなど）に十分注意して授業に臨む。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	前方回転受身、投の形（始めの動作、終わりの動作、支釣込足）	実習
2回	投の形、支釣込足	実習
3回	投の形 釣込腰	実習
4回	投の形 釣込腰	実習
5回	投の形 払腰	実習
6回	投の形 払腰	実習
7回	投の形 浮落	実習
8回	投の形 浮落	実習
9回	投の形 背負投	実習
10回	投の形 背負投	実習
11回	投の形 浮腰	実習
12回	投の形 浮腰	実習
13回	座学：柔道の歴史・理念・審判規定	実習
14回	投の形 送足払、約束乱取	実習
15回	投の形 送足払、約束乱取	実習
16回	座学：柔道の歴史・理念・審判規定	実習
17回	投の形 内股、約束乱取	実習
18回	座学：柔道の歴史・理念・審判規定	実習
19回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
20回	まとめ、解説	実習

2026年度 [分野] 専門基礎 / 社会保障制度

[授業科目]

社会保障制度

3学年

[基本情報]

担当教員	関 凌眞		単位数	2	時間数	30
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。					
開講学期	---	後期	授業形態	講義	---	

[授業目標]

社会保障制度について理解する。保険を扱う資格として、改正が行われる保障制度の最新の内容を理解し、適切に制度を利用できる知識を身に付ける。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版）

[履修の条件・留意点]

- ・各講義の復習をしっかりと行い、各講義の内容を理解しておくこと。
- ・毎回の授業の理解度の確認のために、前回授業の復習テストを実施します。
- ・授業中、机上には、飲食物を置かないこと。
- ・パソコンやタブレット等の使用は許可を得ることで使用可能とする。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	ガイダンス、社会保障の3つの機能、あるべき社会と今後の社会保障	講義
2回	公的年金、介護保険、社会福祉・公的扶助・公衆衛生の意義と仕組み	講義
3回	医療保険の目的と意義	講義
4回	保険診療の概要	講義
5回	医療保険財政の現状と課題	講義
6回	診療報酬制度	講義
7回	療養費とは	講義
8回	柔道整復療養費	講義
9回	柔道整復療養費の推移	講義
10回	療養費の算定	講義
11回	療養費請求のケーススタディ①	講義
12回	療養費請求のケーススタディ②	講義
13回	療養費請求のケーススタディ③	講義
14回	総復習（社会保障制度、医療保険制度、療養費）	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

職業倫理

3学年

[基本情報]

担当教員	泉澤 勝	単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験があり、柔道整復師および専科教員資格、柔道5段、整骨院を開業している教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

柔道整復師としての適切な倫理観を身に付ける。柔道整復術を業として行う際の正しい行動、思考を学び、職業人としての倫理観を逸脱することの無い様、適切な対応を出来る能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「社会保障制度と柔道整復師の職業倫理」南江堂	
------------------------	--

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料は配布するも教科書を復読する事。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常実施する。携帯電話、スマホの使用は禁止する。

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	わが国の社会保障	講義
2回	柔道整復師業務における療養費	講義
3回	医療従事者の職業倫理	講義
4回	医療人としての資質（グループワーク形式で実施）	講義
5回	医療人としての資質（グループワーク形式で発表）	講義
6回	療養費の算定	講義
7回	療養費請求のケーススタディ	講義
8回	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応	講義
9回	接骨院での事故例	講義
10回	柔道整復師の社会的責任と対応（グループ・ディスカッション事例）	講義
11回	医療における情報と責任	講義
12回	医療に不可欠な対話の重要性	講義
13回	プロフェッショナリズムとは	講義
14回	活躍する柔道整復師、まとめ	講義
15回	まとめ、解説	講義

[授業科目]

柔道整復特論Ⅰ

3学年

[基本情報]

担当教員	須田 正志	単位数	2	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

上肢、下肢、体幹の各骨折の特徴、基本的な治療方針などについて学び、医師との連携を考慮した能力を養う。機能解剖、画像読影（上肢、下肢、体幹）する能力を養う。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」南江堂	「標準整形外科学」「図解骨折治療の進め方」共に医学書院
---------------------------	-----------------------------

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料は配布するも教科書を復読する事。練習問題、過去の国家試験問題を実施し、理解度・要望に応じ変更の可能性あり。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。
--

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	授業概要の説明、鎖骨骨折	講義
2回	鎖骨骨折	講義
3回	鎖骨骨折	講義
4回	肩甲骨骨折	講義
5回	上腕骨近位端部骨折	講義
6回	上腕骨近位端部骨折	講義
7回	上腕骨骨幹部骨折	講義
8回	上腕骨顆上骨折	講義
9回	上腕骨顆上骨折	講義
10回	上腕骨遠位端部骨折	講義
11回	前腕骨近位端部骨折	講義
12回	前腕骨骨幹部骨折	講義
13回	前腕骨骨幹部骨折	講義
14回	前腕骨遠位端部骨折	講義
15回	前腕骨遠位端部骨折	講義
16回	手根骨骨折	講義
17回	中手骨骨折	講義
18回	指骨骨折	講義
19回	頭部脊柱骨折	講義
20回	肋骨・胸骨骨折	講義

[授業科目]

柔道整復特論Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠	単位数	2	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	講義	---

[授業目標]

1, 2年次に学んだ総論、骨折についての理解をさらに深める。特論Ⅱでは総論と全骨折、軟部組織損傷を実際の画像を用いて学び、より臨床的な知識と、国家試験でも対応できる知識を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「柔道整復学・理論編」「柔道整復学・実技編」南江堂	「標準整形外科学」「図解骨折治療の進め方」共に医学書院
---------------------------	-----------------------------

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料を配布する。教科書を必ず持参する事。本講座の活用で春の栄冠をぜひ勝ち取ってください！授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	骨盤・股関節骨折	講義
2回	膝関節・下腿骨々幹部骨折	講義
3回	足関節部骨折	講義
4回	足根骨・中足骨骨折	講義
5回	下肢骨折まとめ、小テスト	講義
6回	骨折の分類、症状	講義
7回	骨折の合併症から予後まで	講義
8回	関節、軟部、神経損傷について	講義
9回	整復法、固定法について	講義
10回	後療法について	講義
11回	柔道整復学総論、骨折全範囲復習	講義
12回	柔道整復学総論、骨折全範囲復習	講義
13回	柔道整復学総論、骨折全範囲復習	講義
14回	柔道整復学総論、骨折全範囲復習	講義
15回	柔道整復学総論、骨折全範囲復習	講義
16回	柔道整復学総論、骨折全範囲復習	講義
17回	柔道整復学総論、骨折全範囲復習	講義
18回	柔道整復学総論、骨折全範囲復習	講義
19回	柔道整復学総論、骨折全範囲復習	講義
20回	柔道整復学総論、骨折全範囲復習	講義

[授業科目]

画像評価学

3学年

[基本情報]

担当教員	柴村 天志	単位数	2	時間数	30
実務/資格	臨床経験があり、柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	講義	---

[授業目標]

種々の画像を読影できる能力を身に付ける。レントゲンやMRIなどの画像のみかたを学ぶ。また、柔道整復師が使用できる超音波観察装置の使用方法を理解し、施術の補助として活用できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

「施術の適応と医用画像の理解」 南江堂	骨・関節X線写真の撮り方見かた 医学書院
---------------------	----------------------

[履修の条件・留意点]

授業に必要な資料は配布するも教科書を復読する事。授業中の飲み物（水・お茶）は許可するが、菓子類を食する事は禁ずる。質疑応答は常に実施する。携帯電話、スマホの使用は禁止する。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	医用画像の理解（X線写真 CT MRI 超音波）	講義
2回	画像分析	講義
3回	肩関節の撮影法と評価 1	講義
4回	肩関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
5回	肘関節の撮影法と評価 1	講義
6回	肘関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
7回	手関節の撮影法と評価 1	講義
8回	手関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
9回	股関節の撮影法と評価	講義
10回	膝関節の撮影法と評価 1	講義
11回	膝関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
12回	足関節の撮影法と評価 1	講義
13回	足関節の撮影法と評価 2 超音波観察装置使用	講義
14回	体幹の撮影法と評価、まとめ	講義
15回	まとめ、解説	講義

2026年度 [分野] 専門 / 柔道整復実技

[授業科目]

柔整脱臼軟損実技Ⅲ

3学年

[基本情報]

担当教員	森澤 隆弘		単位数	1	時間数	40
実務/資格	整形外科で臨床経験をつみ、整骨院を開業している柔道整復師専科教員免許を持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習	

[授業目標]

上肢、下肢、体幹の脱臼、軟部組織損傷に対して処置を学ぶ。上肢、下肢、体幹の脱臼の整復、固定の基礎知識、技術を身に付ける。また、上肢、下肢、体幹の軟部組織損傷の検査法と処置できる技術を身につけ、臨床現場で施術できる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

出席日数、後期期末試験(卒業試験)成績、授業態度単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論編、実技編	標準整形外科、解剖学
--------------	------------

[履修の条件・留意点]

実質的に、卒業後の柔整業務で非常に関わりの深い授業です。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	顎関節脱臼、顎関節症の整復法と固定法	実習
2回	鎖骨脱臼(肩鎖関節、胸鎖関節) の整復法と固定法	実習
3回	肩関節脱臼①前方脱臼の鑑別、整復法・固定法	実習
4回	肩関節脱臼②後方脱臼、上方脱臼、下方脱臼の整復法・固定法	実習
5回	肩関節軟損①腱板断裂、上腕二頭筋損傷、ペネット損傷、スラップ損傷、の検査法・治療法	実習
6回	肩関節軟損②インピンジメント症候群、リトルリーガー肩、肩関節不安定症、末梢神経障害、肩関節周囲炎の治療法	実習
7回	肘関節脱臼（後方脱臼）の鑑別・整復法・固定法	実習
8回	肘関節～前腕部軟損①靱帯損傷・野球肘の検査法・治療法	実習
9回	肘関節～前腕部軟損②神経麻痺の理論と検査法・治療法	実習
10回	手関節～指関節脱臼の整復法	実習
11回	手関節～指関節脱臼の固定法	実習
12回	手関節～指関節軟損（TFCC損傷、ド・ケルバン病、手根管症候群）の検査法・治療法	実習
13回	手関節～指関節軟損②（ギヨン管症候群、キーンベック病、マーデルング変形、マレットフィンガー）の検査法・治療法処置法	実習
14回	手関節～指関節軟損（指の靱帯損傷、ロッキングフィンガー、ばね指、手指の変形）の検査法・処置法治療法	実習
15回	手部の脱臼と軟損の固定法	実習
16回	肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肘関節脱臼、肘内障診察、整復①	実習
17回	肩関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肘関節脱臼、肘内障診察、整復②	実習
18回	腱板損傷、二頭筋長頭腱損傷診察、施術	実習
19回	大腿筋損傷、膝関節捻挫、腓腹筋損傷、足関節捻挫診察、施術	実習
20回	問題演習（顎関節～足関節捻挫まで）、解説	実習

[授業科目]

柔整総合実技Ⅰ

3学年

[基本情報]

担当教員	間中 朋美	単位数	1	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。				
開講学期	前期	---	授業形態	---	実習

[授業目標]

1, 2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。特に認定実技審査項目を重点的に学び、実際の臨床現場を想定し、来院した患者の対応、評価、施術を正しく行うことができる能力を身に付けることを目標とする。

[評価方法]

単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。
単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論編 改訂版第7版	整形外科
柔道整復学実技編 改訂第2版	標準整形外科

[履修の条件・留意点]

受講時は必ず白衣を着用すること。
確実にできる・覚えるまで反復して学習する事。（1回やった＝確実にできる、ではない。）

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	肩腱板損傷	実習
2回	上腕二頭筋腱損傷	実習
3回	肩鎖関節脱臼理論	実習
4回	肩関節脱臼理論	実習
5回	肘関節脱臼理論	実習
6回	肘内障理論	実習
7回	大腿部損傷理論	実習
8回	膝関節損傷（ACL・MCL・MM）理論	実習
9回	膝関節損傷（ACL・MCL・MM）理論	実習
10回	膝関節損傷（ACL・MCL・MM）理論	実習
11回	下腿三頭筋損傷・アキレス腱断裂	実習
12回	足関節捻挫	実習
13回	総まとめ 固定・検査法① 上肢編	実習
14回	鎖骨骨折 診察と整復、固定	実習
15回	総まとめ 固定・検査法② 下肢編	実習
16回	上腕骨外科頸外転型骨折 診察と整復、上腕骨骨幹部骨折 固定	実習
17回	総まとめ 固定・検査法③ 下肢編	実習
18回	コーレス骨折 診察と整復、固定	実習
19回	肋骨骨折、第5中手骨頸部骨折、下腿骨骨幹部骨折 固定	実習
20回	骨折総まとめ 診察と整復及び固定	実習

[授業科目]

柔整総合実技Ⅱ

3学年

[基本情報]

担当教員	増地 克之、間中 朋美	単位数	1	時間数	40
実務/資格	柔道整復師として臨床経験を積み、専門学校での指導経験がある教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

1, 2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。柔道、認定実技審査項目の学習と、骨折、脱臼、軟損の臨床的 施術方法を身に付けることを目標とする。
--

[評価方法]

単位認定は出席日数、授業態度、単位認定試験等の結果をもって判定する。 なお、全授業数の1/3以上の欠席があった場合、学期末試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

昇段審査のための柔道の形入門(投の形)(柔の形) 小俣幸嗣著 大泉書店	
--	--

[履修の条件・留意点]

身だしなみ（ネックレス、ヘアピン、ピアスなど）に十分注意して授業に臨む。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	投の形 内股、約束乱取	実習
2回	投の形 内股、約束乱取	実習
3回	投の形 肩車	実習
4回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
5回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
6回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
7回	プレ認定実技審査	実習
8回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
9回	投の形 反復練習 約束乱取	実習
10回	まとめ、解説	実習
11回	肩鎖関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
12回	肩関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
13回	肘関節脱臼の理論と整復固定実技	実習
14回	上腕骨外科頸骨折の理論と整復実技	実習
15回	橈骨遠位端部骨折の理論と整復実技	実習
16回	顎関節脱臼の理論と整復実技	実習
17回	上肢脱臼の総復習	実習
18回	下肢脱臼の総復習	実習
19回	上下肢の総復習	実習
20回	上下肢の総復習	実習

[授業科目]

柔整総合実技Ⅲ

3学年

[基本情報]

担当教員	森澤 隆弘、佐々木 玲衣		単位数	1	時間数	40
実務/資格	整形外科で臨床経験をつみ、整骨院を開業している柔道整復師専科教員免許を持つ教員が指導する。					
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習	

[授業目標]

1, 2年次に学んだ実技をさらに深く理解する。関節や筋などの損傷を重点的に学び、実際の臨床現場を想定し、来院した患者の対応、評価、施術を正しく行うことができる能力を身に付けることを目標とする。
--

[評価方法]

出席日数、後期末試験(卒業試験)成績、授業態度単位認定試験と卒業試験によって総合的に判断する。 単位認定試験のみ授業で学習した範囲とする。また全授業数の1/3以上の欠席があった場合、単位認定試験の受験は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復学理論編、実技編	標準整形外科、解剖学、包帯固定学
--------------	------------------

[履修の条件・留意点]

実質的に、卒業後の柔整業務で非常に関わりの深い授業です。

授業計画：回数/講義内容/形式

1回	上肢骨折（鎖骨、外科頸、上腕骨骨幹部、コーレス、第5中手骨）の整復、固定	実習
2回	上肢骨折（鎖骨、外科頸、上腕骨骨幹部、コーレス、第5中手骨）の整復、固定	実習
3回	体幹、下肢骨折（肋骨、下腿骨骨幹部）の整復、固定	実習
4回	体幹、下肢骨折（肋骨、下腿骨骨幹部）の整復、固定	実習
5回	上肢脱臼（肩鎖、肩、肘、肘内障、第2指PIP）の整復、固定	実習
6回	上肢脱臼（肩鎖、肩、肘、肘内障、第2指PIP）の整復、固定	実習
7回	上肢軟損（腱板、上腕二頭筋長頭腱）の診察	実習
8回	上肢軟損（腱板、上腕二頭筋長頭腱）の診察	実習
9回	下肢軟損（ハムストリングス、大腿四頭筋、膝関節、下腿三頭筋、足関節）の診察、	実習
10回	下肢軟損（ハムストリングス、大腿四頭筋、膝関節、下腿三頭筋、足関節）の診察、	実習
11回	外傷性股関節脱臼、発育性脱臼①診察、施術	実習
12回	膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼解説、施術	実習
13回	膝関節捻挫（前十字靱帯、側腹靱帯、半月損傷）	実習
14回	膝関節捻挫（ランナー膝、ジャンパー膝、スポーツ障害、成長障害）	実習
15回	下腿部損傷（コンパートメント症候群、シンスプリント、疲労骨折鑑別）	実習
16回	下腿部損傷、アキレス腱断裂	実習
17回	足関節捻挫（距腿関節靱帯損傷、腓骨筋腱脱臼）	実習
18回	足関節捻挫（ショパール関節、リスフラン関節捻挫）、足部成長障害	実習
19回	足根管症候群、フットボーラーズアングル、外脛骨、三角骨障害）	実習
20回	足関節部～前足部脱臼（距腿関節）	実習

2026年度 [分野] 専門 / 臨床実習

[授業科目]

臨床実習Ⅳ

3学年

[基本情報]

担当教員	最上 忠	単位数	1	時間数	45
実務/資格	専門学校での指導経験がある柔道整復師の専任教員が指導する。				
開講学期	前期	後期	授業形態	---	実習

[授業目標]

臨床実習前施術試験等を先ず行い、実習に際して十分に知識を習得してから接骨院、整形外科、競技会場、介護施設で実習を行うことにより、接骨院とリラクセーションの違いを明確にし、また、機能訓練指導員としての柔道整復師の適切な業務範囲を理解する。

[評価方法]

当科目の単位認定は出席日数、授業態度、最終評価と臨床実習振り返りシートの記入をもって判定する。
なお、例外を除いて、欠席は認めない。

[教科書]

[参考書]

柔道整復理論・実技	
-----------	--

[履修の条件・留意点]

主に付属整骨院、介護施設にて実習を行うので、身だしなみ(頭髮、髪色、服装、アクセサリ-)には特に注意すること。医療人としての自覚を持ち、患者さんに接する態度にも十分に留意する。下記の実施内容についても練習するので、事前に復習しておくこと。

授業計画：回数/講義内容/形式		
1回	主に附属治療院、介護施設、陸上大会にて実習	実習
2回		実習
3回		実習
4回		実習
5回		実習
6回		実習
7回		実習
8回		実習
9回		実習
10回		実習
11回		実習
12回		実習
13回		実習
14回		実習
15回		実習
16回		実習
17回		実習
18回		実習
19回		実習
20回		実習
21回		実習
22回		実習
23回		実習